

安全衛生に対する取り組みを評価する制度の導入を要請

- 平成 22 年度公共工事発注機関連絡会議 -

筑西労働基準監督署

筑西労働基準監督署では、8月3日に平成22年度公共工事発注機関連絡会議を開催しました。会議には、国の機関、茨城県及び市町などの9つの機関において工事を発注する責任者など21名が参加しました。

同会議は毎年開催していますが、今年度はスタイルを変えて、現在、川田建設(株)が施工している鬼怒川新橋の建設工事現場の視察を実施しました。

現場視察では、川田建設(株)の監理技術者である高野氏より工事の概略及び労働災害を防止するための安全衛生活動の内容の説明があり、参加者からは、川の増水時や雷雨の際の安全対策などの質問が寄せられました。

現場視察の後は、会場を茨城県県西生涯学習センターに移し、「公共工事の発注に関し、入札企業の安全衛生に対する取組を評価する入札制度の導入について」協議しました。深津第二課長より先行する機関の例として、事業者が自主的に行うリスクアセスメントを実施している場合は入札において加点評価をしていることなどを紹介し、各機関において検討をお願いしました。

また、茨城県筑西土木事務所の浅川道路整備課長より「施工業者に対する労働災害防止対策に関する指導・支援状況」について説明がありました。施工業者の安全確保のためにきめ細かな配慮を行っている事例



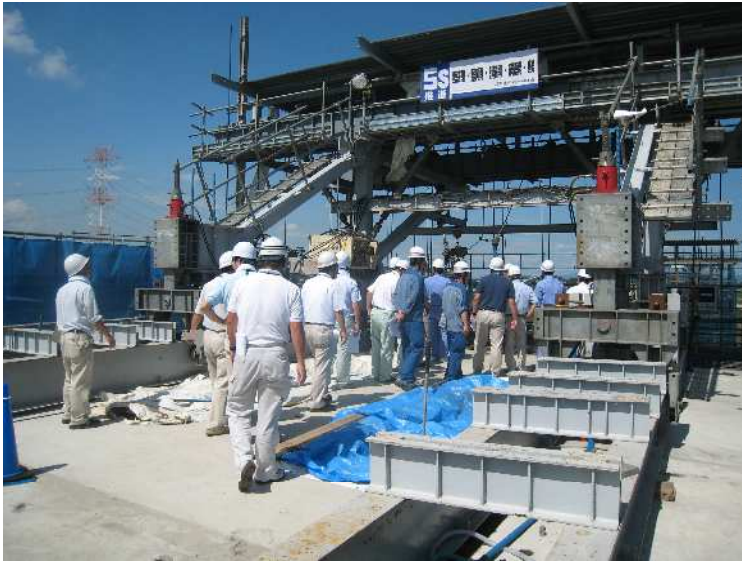
写真は、鬼怒川新橋の工事現場において、施工者の説明を聞く参加者。

として、翌日の作業に備え、夕方の作業終了時に作業員の顔色をチェックし、体調が優れないと思われる場合は、注意を促すなどの事例が紹介されました。なお、必要に応じては、医療機関の受診などを勧めているとのこと。さらに土木事務所の職員には、工事現場との連携を密にするため、こまめに現場を訪れるよう指導していることなどの話がありました。

管内における建設工事の労働災害は減少傾向にありますが、依然として建築物などからの墜落・転落など、重篤な労働災害は後を絶ちません。

筑西労働基準監督署では、今後も公共工事における労働災害の防止のため各機関と

連携し、特に「入札企業の安全衛生に対する取組を評価する入札制度の導入について」促進を図ることとしています。



写真は、鬼怒川新橋の橋板を視察する参加者。橋板は、太陽の照り返しがあり、地上部分と比べるとWBGT 温度計を用いて計測したところ 2 度以上高い気温でした。

現場では熱中症対策にも力を入れており、水分、塩分の補給と適度な休憩をとるよう呼びかけるとともに、熱中症予防用の塩熱飴を準備したり、橋板上部にもエアコンの効いた休憩所を設けていました。

写真は、茨城県県西生涯学習センターでの会議の様子を撮影したもの。

監督署から、建設業における労働災害の発生状況と入札企業の安全衛生に対する取組を評価する入札制度の導入について説明しました。

最後に各機関の安全衛生に関する取り組みについて、意見交換を行いました。

